

おまけ：ディベート用語の解説と、その略号

最後に、ディベートを始めるにあたって一番やっかいな、ディベート用語の解説と、その略号を載せておきます¹。分からなくなったら、ここに帰ってきて下さい。一般的な略号ないし略称がある場合には、[]で示してあります。

[A]

absolute PMA : PMA とは Plan never Meets Advantage の略。だから、absolute PMA というのは、plan によって全く AD が得られないという議論のこと。

actual 病 : どんな場合でも“actual analysis is tie-breaker.”と主張したがるディベーターに蔓延している病気。個々の議論における理論と事実との関係をよく考えることで治るといふ。

additional advantage : 1AC で出したのとは別の、新しい付加的な AD のこと。

advantage : AFF の plan によって産み出される利益、メリットのこと。inherency, impact, solvency の 3 要項から成る。[AD]

alternative justification : 1AC で複数の plan を出しておいて、NEG の出方に応じて最後にどの plan を引っ張るのかを AFF は決めることができる、ということを正当化する議論のこと。

amend : 2AC 以降で、plan に修正を加えること。

argument : claim-warrant-data から成る 1 つのユニットのこと。または、証拠に支えられた主張のこと。

assertion : 証拠ないし理由付けを欠いた放言のこと。

assumption : ある議論が成り立つときの前提のこと。

[B]

ballot : ジャッジが試合の判決理由を書く紙のこと。試合の後にもらえる。

¹ この用語集を作るにあたっては、NTC's Dictionary of Debate と、Debate Q&A の巻末を参考にさせて頂きました。

better standard : topicality の議論において、AFF と NEG の解釈のうち優れた 1 つのみを選択する基準のこと。 reasonable standard も見よ。

both adoption : plan と C-P を同時に取ることを主張する議論。 mutual exclusive の反対。 [B/A]

brief : PMA や Turn といった、 1 つの issue をあらかじめ書いておいた紙のこと。

brink : DA でよく用いられる議論で、ある事象が起こりそうな崖っぷちに現状があることを示そうとする議論のこと。 慣用 : “now is on the brink!”

burden of proof : 主張を立証しなければならない義務のこと。 立証義務と訳される。

[C]

card : ディベートで用いられる evidence の別称。 evidence と同じ。

case : AFF が 1 AC で提出する AD 全体をまとめたもの。 contention 形式のものと、 advantage 形式の、 2 つの種類がある。

caseside : DA や C-P といった offcase とは反対に、 case 側の議論のこと。 よくリバトルで、 DA を extend した後に “go to caseside.” と言ったりする。

claim : 主張のこと。 argument のラベルとなるもの。

comparative advantage : 現状の問題を完全に解決することは不可能であるとしても、現状に比べてプランの方が比較的に利益があることを示そうとする議論のこと。

comparison : 2 つの主張を比較すること。 例えば AD や DA を比べたり、 plan と C-P を比べたりするときに使われる言葉。 [コンパリ]

competitiveness : C-P の 3 要項の 1 つ。 plan と C-P が競合的なものであることを示す議論。 C-P が competitive であるか否かは、 C-P と plan + C-P (both adoption) との比較によって得られる。 [コンペ]

conditional stance : 両立しない 2 つの議論が提出された時、「A が立たないなら B が残る」というように、状況によって議論を選ぶというスタンスのこと。

consensus : コンセンサス。 AFF と NEG の間に、ある同意が生じていること。

constructive : 立論のこと。立論段階では、自由に議論を提出することができる。逆に、rebuttal 反論では、立論での議論を再構成することが求められる²。[コンスト、コン]

contention : 論点。多くの場合、contention 1, contention 2 というように、大きな見出しとして機能する。[C-1, C-2 など]

contradiction : 矛盾。ある 2 つの議論が両立不可能であること。多くのジャッジは矛盾した議論を無視する傾向にある。[コントラ]

counter plan : AFF の plan に対抗すべく NEG が提出する plan のこと。non topicality, competitiveness, superiority の 3 要項から成る。[C-P]

counter-agent counter plan : 行為者が異なる C-P のこと。例えば、「日本政府は～すべし」という plan に対して、「国連が～すべし」というような C-P のこと。

counter warrant : AFF が提出した plan とは別の、他の topical plan から DA が生ずることを示して、resolution を否定しようとする議論のこと。[C-W]

critic : ある議論の評価をジャッジの一般的な知識に基づいて批判的に行うジャッジング・スタンスのこと。タブラ・ラサの反対。

cross-apply : 他のフローでの議論を転用するときに言う言葉。例えば、“cross apply 3rd argument in underview.” というように使う。[C/A]

cross-examination : ディベートでの質問時間。立論を終えたディベーターが、相手側のディベーターからの質問に答える時間のこと。

[D]

data : claim を支える事実のこと。ほとんどの場合、証拠(evidence)引用によって提出される。例) 日本人の喫煙率は %だ、という事実をある統計から引用する

decision rule : 試合の判定を決定するような基準。例えば、「この試合では人権保護が一番大切です」といった基準のこと。[D/R]

definition : 単語の意味を明らかにすること³。ほとんどの場合、英々辞典からの証拠引用を通じて行われる。[def]

² ただし、何をもちて new argument とするか、その点については幾つかの考えがあります。

³ ただし、どんな単語にでも definition が必要だとは思わないで下さい。例えば、one とか I とかいった単語は、日常言語の基盤になるものであって、辞典によって定義するようなものではないです。

delivery : ディベートでのプレゼンテーション能力のこと。発音・アクセント・適当なスピード・ポーズといった音声にかんするものに加えて、アイコンタクトやジェスチャーといったものも含まれる。

disadvantage : plan によって生じる不利益、デメリットのこと。uniqueness, linkage, impact の 3 要項から成る。[DA]

distortion : 原典を忠実に伝えていないような証拠引用のこと。[ディスト]

drop : 相手の出した議論を立論段階で反論せずに落としてしまうこと。ディベートでは「沈黙は同意を意味する」と言われ、drop した議論を反論段階で、新たに反論することはできない。(ただし、相手の議論を評価することは反論にはあたらない)

[E]

effect-topicality : AFF の plan 自体は non-topical だが、この plan が命題を肯定する結果を生じさせるという理由から、この plan が topical であると主張すること。

また反対に、結果だけが topical だから plan 自体は non-topical であるという反対の主張のことを指す場合もあるので注意。[effect-T]

empirically denied : 経験的に否定されている、という議論。例えば、「陪審制を採用すると犯罪率が上がる」という DA に対して、AFF が「大正時代に陪審制が採用された時には犯罪率は上がらなかったから、経験的に否定されている」というように言うこと。[E/D]

empirically proven : 経験的に立証されている、という議論。例えば、「陪審制を採用すると冤罪が減る」という議論に対して、「大正時代に陪審制が採用された時に冤罪が減った」というように言うこと。[E/P]

evaluate : 議論の強さや価値を評価すること。

evidence : 主張を支える証拠のことで、本やインターネットからの引用文章のことを指す。[エビ]

extend : 立論での議論を、分析しつつ展開していくこと。例えば、「失業者は自殺する」という立論の議論を、「失業者は自殺する。証拠にあるように、プライドを失い、将来の希望が見えなくなった人々は、自暴自棄になって自殺する確率が高まる。」というように展開していくこと。

extra-topicality : plan の一部は non-topical であるから、その部分から来る AD は命題を肯定することはできない、と主張する議論のこと。例えば、「陪審制を採用する」という plan に、

a) 民事と刑事の両方に陪審制を採用する

b) 陪審制を円滑に行うためにディベート教育を小学校から行わせる
という 2 つの plank があった場合、b) から生じる AD は extra-topical となる。

[F]

fast delivery 病 : ディベートが早読み大会であると誤解しているディベーターがかかっている病
気。現在に到るまでディベート界に未だに蔓延している。ジャッジの気持ちになってスピーチ練習
をすることで治るといふ。

feasibility : ある状況のもとで、何らかの行為を行うことが可能であること。例えば、国会は法律
を作ることができるので feasibility があるが、内閣は法律を作ることができないので feasibility が
ない。 workability も見よ

fiat(ファイアット) : “let it be done.”を表す言葉。ディベートでは、「ある政策がもし採用された
ら ...」という仮定を許容する取り決めを指す。ディベートはこうした仮定のもとで進んでいくの
で、この仮定が不可能である、という議論は不適切である。 should-would fallacy も見よ。

flip : AFF が主張する AD(DA)がそのまま DA(AD)になることを主張する議論のこと。例えば、AFF
が「20 歳未満の喫煙を禁じる法律を作ること、20 歳未満者の喫煙率は下がる」という AD を提
出したのに対して、NEG が「むしろ好奇心や反発心を煽る結果になり喫煙率は逆に上がってしま
う」というような主張をすること。turn とほとんど同じ意味。 turn も見よ。

[G]

generic disad : どんな Plan にでも付く汎用的な DA のこと。当然ながら plan に固有な DA では
ないので、uniqueness が弱い。95 年くらいまでは、広い proposition が多かったので、generic DA
はよく使われていた。有名な generic DA には、growth(経済成長 自然破壊 種の絶滅) spending
(お金を使う 経済成長 ...) bureaucracy (Plan を採用する 官僚がサボタージュする 不安
定な政府になる) などがある。

[H]

hypothesis testing paradigm : 命題を検証すべき仮説と類比的に考える paradigm のこと。AFF
は、部分的な具体例ではなく命題全体を肯定することが求められ、また反例(counter warrant)が 1
つでもあれば NEG が勝利することになる。[ハイポ]

[I]

impact(1) : ある出来事に価値があることを主張する議論のこと。AD や DA の 3 要項の 1 つ。[imp]

impact(2) : ある議論の重要性のこと。例えば、“Impact : Topicality is an voting issue.” “What is
the impact of your argument?” などのように使われる。[imp]

inherency : plan が採用されていないので現状にある出来事が生じている、ということを主張する議論。AD の 3 要項の 1 つ。[inh]

irrelevant : ある議論が、問題となっている議論と無関係であること。例えば、「政府は 20 歳未満の喫煙を禁止すべきか」という議論に対して、「20 歳未満の飲酒は有害である」と論じるのは irrelevant である。[irr]

irrelevant 病 : どんな相手の議論に対しても、“irrelevant”で反論するディベーターがかかっている病気。直るまでにかなり時間がかかる。

issue : 命題の肯定 / 否定に関係する議論のこと。ふつうは AD, DA(Turn), Topicality, C-P のことを指す。慣用 : 「次の大会、何回ろうか？ issue がねーなー。」

[J]

justification : ある議論が採用されることが正当であることを主張する議論のこと。例えば、普通のジャッジは Counter Warrant を取らないが、そうしたジャッジに C-W を取らせるためには、C-W の justification が必要である。また、legitimacy と呼ばれる。

[L]

likelihood : ある出来事が起こりそうな見込みがあること。

linear : ある行為を行えば行うほど、それと比例してある出来事が生じること。実際のディベートでは、not unique (現状でも DA が生じている) を出された NEG が、それを認めつつ plan によってさらに DA が悪化することを述べる時によく使われる⁴。

link(1) : plan を取ることによって、ある出来事が生じること。DA の 3 要項の 1 つ。

link(2) : ある出来事と他の出来事、ある議論と他の議論につながりがあること。

lump : 複数の議論をまとめること。多くは、複数の議論に 1 つ 1 つ反論せずにまとめて反論する時に使う。例 : “please lump up these three arguments.”

[M]

mandate : plan のより細かい施行内容のこと。plank とほぼ同義。

⁴ ただし、現状でも悪いことは起こっているが、Plan 後には更に悪化する、という議論は、厳密に言うとは linear の議論ではない。というのも、linear というのは、Plan と【比例して】DA が発生することを主張する議論だからである。

minor repair : 現状に小さな変更を加えること。C-P の小さい版のようなもので、多くの場合は 1 つの独立したフローではなく、AD のフロー上にかかれる。C-P と同じく non topicality, competitiveness, superiority の 3 要項が必要。[M-R]

mutual exclusive : plan と C-P が同時に採用することが不可能であると主張する議論のこと。例えば、plan と status quo は mutual exclusive である。こうして考えてみると、keep status quo というのは、1 つの C-P と考えられる。[M/EX]

[N]

negative block : 2NC と 1NR を合わせた時間のこと。たいていの試合は、この neg block の出来具合で勝敗が決まるといっても言い過ぎではないほど、重要なところ。

net benefit (1) : counter plan の competitiveness の 1 つ。plan と C-P は一緒に取ることはできるが、C-P のみを取った方が、利益が大きいかを主張する議論のこと。CP > Both の状態。

net / net benefit(2) : AD と DA との比較といった、利益上での議論のこと。たいていの場合、theory(C-P,Topicality)との対比で使われる。慣用:「あの case は net じゃ勝てないから、theory で潰すしかないでしょ。」

no impact : impact に何ら重要性がないこと。[N/Imp]

no inherency : plan を取らなくても、現状においてある出来事が解決されることを主張する議論のこと。[N/Inh]

no linkage : plan と取っても DA が生じないこと。[N/L]

no-negative-fiat : NEG には fiat がないことを主張する議論のこと。NEG に fiat がないということとはつまり、NEG に C-P を出す権利はないということである。

non topical : plan が命題外であること。[N-T]

non topicality : C-P の 3 要項の 1 つで、C-P が命題外にあることを主張する議論のこと。[N-T]

no solvency : plan が inherency を解決しないこと。[N/Sol]

no threshold : DA がどのような地点において生じるのか、その臨界点を NEG が示していないことをジャッジにアピールしようとする議論のこと。多くの場合、not unique と共に用いられる。[N/Th]

not unique : DA が plan に固有でないことを主張する議論のこと。[N/U]

no uniqueness : not unique を見よ

[O]

observation : case と関係する議論で、ほとんどの場合 case の始めに導入として提出される議論のこと。inherency ではないことに注意。[obs]

of course 病 : リバトルに入ると of course! を連発し始めるディベーターの病気。冷静にスピーチできるようになれば治るという。

offcase : case とは独立に論じられる議論のこと。DA,C-P, Topicality など。

on balance : 「どちらかという」とを表す議論。ディベートの試合では、コンパリを含んだ議論を提出するときによく使われる。慣用 : “on balance, jury system solves false charges.” これは、職業裁判官よりも陪審員の方が、比較的に冤罪を解決することを主張している議論のこと。[O/B]

outweigh : Aの方がBよりも大きい、ということを表す動詞。ちなみにこの動詞は他動詞なので、“AD outweighs.”のように使うのは文法上誤りであることに注意。“AD outweighs DA.”が正しい。[O/W, >]

overview : inherency の前に提出される議論。observation との違いは、observation は case の内容と密接に関係しているのが多いのに対して、この overview は DA や Top 対策のために読まれるものである、という点にある。慣用 : “overview for topicality.” [OV]

[P]

paradigm : ディベートの勝敗を決定するルールのこと。歴史的には、stock issue paradigm, hypothesis testing paradigm, policy making paradigm などの様々なパラダイムが登場してきている。

perception argument : plan を取ることで人々の意識が変わることを主張する議論。たいていは疑わしいものばかりであるが・・・

permutation : plan と C-P の一部を組み合わせ採用することで、C-P の competitiveness を否定しようとする議論のこと。部分的に C-P を採用する場合や、時間や場所をずらす、などの permutation がある。

philosophy : 試合前に配布されている、ジャッジの考えを記した紙のこと。試合で勝つためには、ジャッジを知っておかなければならないので、このフィロソフィーは大変重要。

plan : AFF が命題を肯定するために提出する提案のこと。

plank : plan のより細かい施行内容のこと。mandate とほぼ同義。

PMA : Plan never Meets Advantage の略。plan が advantage を得ることができないことを示そうとする、NEG の議論のこと。例 : 「喫煙を禁止する法律を作っても人々はそれを無視するので PMA だ。」

policy maker : 政策決定をモデルにしてディベートの勝敗を決定するジャッジのこと。ほとんどの場合、policy maker は best policy に AFF の plan が含まれているか / いないかを勝敗の目安にする。

preemption : 相手の議論が出てくる前に、その反論を出しておくこと。先制攻撃。

preparation time : AFF と NEG に各 10 分ずつ与えられた準備時間のこと。どのスピーチの前にも、自由に割り当てて使うことができる。[プレパ時間, プレパタイム]

presumption : ある議論にかんする、ジャッジの事前の考え方。多くの場合、推定と訳される。例えば「喫煙はガンを引き起こす」といった常識から、「topical presumption は AFF にある」といったディベート特有の議論にかんするものまで、幅広く存在する。「topical presumption は AFF にある」というのは、「AFF の plan は提出された時点において、topical であると推定する」という意味である。

prima facie(プリマ・ファキエ) : 「一見して」を意味する用語。ディベートにおいては、ある issue が提出された時に、それが一見して立っていることを要求する考えかたを指す。case には prima facie として inherency, impact, solvency を要求するのが普通である。

process PMA : ある topical plan を取ることが不可能であることを主張する議論のことで、不適切な議論である。 fiat, should-would fallacy も見よ。

proof : 立証。ある主張がしっかりとした根拠に基づいていることを示すためのもの。evidence とはやや異なり、evidence なしでも proof することは可能である。例えば、「人間には空気が必要である」という主張は、証拠引用をしなくても、一般常識や実際に息を止めてみることで立証することが可能である。

proposition : 命題。resolution と同じ。[プロポ]

[Q]

quality : ある出来事の質のこと。人の命、人権、生活の質などが含まれる。[QL]

quantity : ある出来事の量のこと。10人、50匹など。[QT]

quotation : 証拠引用のこと。

quote ... unquote : ある証拠引用をする時に、「引用始め」「引用終わり」を示すための言葉。
[QU...UQ]

[R]

reasonable standard : ある解釈 A が妥当なものであれば、それよりも適切な解釈 B があったとしても、解釈 A を受け入れるべきであるという内容の基準のこと。Topicality の議論において論じられる。 better standard も見よ。

rebuttal : 反論段階のこと。ここでは立論で提出した議論を再構築したり、相手の議論との比較を行うことを通じて、試合に勝利していることを説明することが求められる。[リバ]

redundancy : AFF plan + C-P と C-P only が産み出す利益が全く同じなので、AFF plan は不必要であると論じる議論のこと。C-P competitiveness の 1 つ。ただし、積極的に AFF plan を否定している訳ではないので、多くのジャッジは redundancy を認めない傾向にある。

refutation : 反論。相手の議論の欠点を明らかにしていく過程のこと。

resolution : ディベートの論題。AFF が肯定し、NEG が否定するもの。

response : 応答。ほとんどの場合、argument と同じように使われる。慣用：“my first response is that, spending much money is not unique.”

[S]

should-would fallacy : あるプランが取られないだろうから、それは取るべきではない、と主張する誤った議論のこと。

significance : 重要性。impact とほぼ同義。

solvency : 解決性。plan が inherency を解決すること。[Sol]

spike : DA を起こらないようにするための予防措置のことで、plan の一部に加えられる plank の一種。DA をこうして弾(はじ)くことを、「spike out する」と言う。

spread : 色々な issue を「ばら撒く」こと。AFF なら AD spread、NEG なら theory の spread がよく行われる。

spreader : spread する人のこと。

statistically proven : ある議論が統計的に証明されていること。[S/P]

status quo : plan が取られていない世界のこと。plan が取られていない過去・現在・未来のことを指す。よく「現在 (=SQの一部)」のことであると誤解されるが、それは誤った理解である。[SQ]

stock issue paradigm : 定常争点パラダイムと訳されるパラダイム。AFF は、1)現状に問題があること、2)現状のシステムがこの問題を解決しないこと、3)AFF の plan がこの問題を解決すること、4)プランは AD よりも大きい新たな問題を生じさせないこと、5)plan が命題を支持するものであること、これらの 5 点をそれぞれ示さなければならない。

sub point : inherency や impact において、一連の話の小見出しをつけるための論点こと。a), b) のように使われる。

superiority : C-P によって得られる AD の方が plan によって得られる AD よりも優れていることを主張する議論のこと。C-P の 3 要項の 1 つ。[sup]

[T]

tabula rasa : 原語の意味は「拭われた板」。白紙のような心で、ディベーターが主張することを無批判に受容して議論を評価しようとするジャッジング・スタンスを指す。クリティックの反対。[タブラ]

threshold : 主に DA で用いられる議論で、閾値(いきち)と訳されることが多い。どのような地点において DA が生じるのか、その臨界点のこと。[Th]

tie-breaker : 議論が均衡している場合に、この均衡を破ることができるような議論のこと。ただし、ほとんどの場合で適切に使われていないのを目にする。

tie-breaker 病 : どのような点において AFF と NEG が tie であるかを示さずに tie-breaker! を連発するディベーターの病気。argument の中身をよく理解し、分析できるようになれば治るといふ。

topicality : plan が命題を支持するか否かを論じる議論のこと。plan が命題内であることを topical と言い、命題外であることを non-topical と言う。[top]

turn / turn around : 相手の議論をひっくり返す議論。反転とか訳される。例えば、「plan によって経済が良くなる」と主張する議論に対して、「plan はむしろ経済を悪くする」という議論は turn になる。ただし、DA の縮小版のようなものを case 内部で読むものも、よくディベーターは turn と呼ぶので注意。[T/]

[U]

underview : case solvency の後に提出される議論。主に DA の preemption が多い。[UV]

uniqueness : plan が採用されていないので現状にある出来事が生じていない、という議論。簡単に言うと、現状に問題がないこと。NEG plan の solvency と考えることができる。[UQ]

[V]

voting issue : 試合を決定する issue のこと。voter と呼ばれる。

[W]

warrant : 論拠。主張とデータとの間を結ぶ隠された前提であることが多い。例 :

claim = これから雨が降る



warrant = カエルが鳴くと雨が降る

data = カエルが鳴いている

workability : ある行為が実際に働く、という議論。例えば、「20 歳未満は喫煙してはならない」という法律にかんして、それが実際に守られたら workable であるが、守られなかったらそれは workable ではない。feasibility とは異なるので注意が必要。まず、「法律を作れるかどうか」が feasibility の議論で、「その法律が働くかどうか」が workability の議論である⁵。

⁵ ただし、workability のことを feasibility と呼んでいるディベーターがいるので注意が必要。いずれにせよ大事なのは、議論の名前ではなくて、その内実である。